

町長所信

(要旨)

今年度は昨年度の東日本大震災を受け、想定にとらわれない、また、想定外の大災害にも対応できる防災対策を進めること、また、年々過疎化と少子化の進行する牟岐の町を如何に活性化するかという二つの大きな課題に向け全力で取り組

んでいるところです。

まず防災対策では、小学校と保育所は高台移転に向け工事が着々と進んでいますが、海部病院は牟岐バイパスの一般国道から自動車専用道路化への変更に、現在早急な計画の見直しを行っているところです。また、本事業は、工事額の大きな事業ですので、できる限りの工事費の削減と補助事業化に向け日々検討しているところです。ゴールは役場庁舎の耐震対策と津



海洋センターリニューアルオープン記念式典

波対策ですので、これまで財政的に可能となりますよう、できる限りの努力を重ねてまいりたいと考えています。

つぎに牟岐町の活性化ですが、既に皆さんご承知のとおり現在、漁業は漁業者の高齢化、漁獲高の減少や魚価の低迷により毎年漁業収入が減少しています。また、農業も後継者不足、鳥獣害や価格の低迷などにより収入が減少しています。このように一次産業不振の中、何とか二次、三次産業でカバーできないかと交流人口の増加と土産物の創出などのため、いろいろな工夫をしていますが、現時点では、まだ良い結果は得られていません。

まちづくりは、人づくりからとよく申します。牟岐町の場合、人のおいでるのですが、その方向性がバラバラなような気がします。私の不徳の致すところでございますが、何とか皆さんが同じ方向に力を結集できますよう取り組んでまいりたいと考えています。

東北被災地議会視察報告

六月二十七日から三日間、岩手県と宮城県の沿岸部を視察した。

仙台空港に着陸する飛行機の窓から最初に目に入ったのが、空港近くの海岸にある津波でなぎ倒されたまま枯れた松林だった。

空港を出ると道路沿いのあちこちに残るガレキ、高速道路から見た海岸沿いの田んぼは、津波で運ばれた泥で覆われ、田植えもできずに放置されていた。

岩手県三陸海岸の陸前高田市に最初に入った。うず高く積まれたガレキと所々に残る被災したままのコンクリートの建物。高等学校、市民会館、市役所などは三階まで窓が割れていた。

宮城県南三陸町では、震災ガイド阿部さんの津波から逃げようと言っても避難せずに亡くなった隣人の話や津波に五時間余り流されても生き延びた知り合いの話、また、避難所での様子など、ご自身の体験談を聞

いた後、町内を案内してもらった。

完成後すぐに津波に遭って鉄骨だけになった小学校体育館、十八メートルの高台にあっても津波が押し寄せた中学校、地盤沈下で満潮時には海水の湧き出る元役場の前庭と隣の防災対策庁舎のほか、仮設で運営している町役場、診療所、警察署、水産物加工場や二月に営業を始めた仮設商店街なども見て回った。

被災から一年三カ月余り、現地はまだ復興には程遠いが、住民の生活は少しずつではあるが、新たな一歩を踏み出していると感じた。

その後も石巻市や女川町と被災状況を見て回ったが、津波の怖さと人間の無力さを痛感するばかりだった。

牟岐町でも必ず来る地震と津波に対して、自分の身は自分で守ること。津波に対してはより高い所に逃げる。この二つを改めて心に刻んで帰路についた。